

風土記の丘の花だより²³³

今、そしてこれから見られる植物(2024年4月29日)

今年はまとまった連休ではなく、前半、後半みたいに分かれていますね。でも、ありがたい休日です。野山に出かけて、心身ともにリフレッシュしてください。風土記の丘でご家族やお友達と、野の花を眺めながらの山歩きもいいですよ。さて、今回も4つ紹介する事にします。



アヤメが咲き始めました。24日には小早川家で見頃でしたが、今頃は万葉植物園や谷山家住宅の庭できれいに咲いていることでしょう。よく「いずれアヤメかカキツバタ」と言われるように、この両者は確かによく似ています。もう少しするとカキツバタも咲くので比べてみるといいでしょう。アヤメの花びらの黄色い部分には網目模様がありますが、カキツバタには黄色い部分がなく白い線が入るだけです。また、アヤメは畑のようなところに生えますが、カキツバタは水田のような所に生えます。



これはコバノタツナミというシソ科の草花です。コバノタツナミソウとも言います。タツナミは「立つ浪」のことで、花の咲き方がまるで波頭のように見えることから名付けられました。コバというのは「小葉」で、葉がタツナミソウより小さいということです。群生すると本当にきれいです。これは小早川家の庭で撮りましたが、近くには白花も咲いていました。ほかにも、谷山家の南の山の斜面や、安藤塚の南東の陽だまりでも群生が見られます。



これはコナスビの花です。名前はナスですが、ナス科ではなく、サクラソウ科の草花です。サクラソウというと、勝手にピンク色の花を想像してしまいましたが、きれいな黄色です。石垣や階段の隅など、せせこましい所で、地面に張り付くように生えて、あまり広い所が好きでないようです。名前にナスビとついているのは、花の後にできる実が卵形で、それを小さなナスビと見てのことです。また、実ができた頃にもう一度探して見てください。



変な形の実がなっていますね。春のはじめにきれいな花を咲かせていたアミガサユリの実です。これは万葉植物園で撮りましたが、小早川家でも見るすることができます。ユリの仲間にはふつう球根でふえます。お庭に植えるときも球根を植えますし、お花屋さんにもユリの種なんか売っていませんね。でも、ちゃんと種はできます。ただ、それから育てると何年というような長い時間がかかるのだそうです。アミガサユリは花が終わった後も、緑色の葉で光合成をして、球根に栄養を蓄え、また来年も花を咲かせてくれます。

松下